



管理職を対象とした「アンコンシャス・バイアス研修」を開催しました！！

7月28日(金)、(株)インソースの吉田英策先生を講師に、学長補佐及び各学部の学部長補佐以上(評議員を含む)の教員と副課長相当職以上の事務職員及び技術職員を対象に「アンコンシャス・バイアス研修」をZoomにて開催しました。

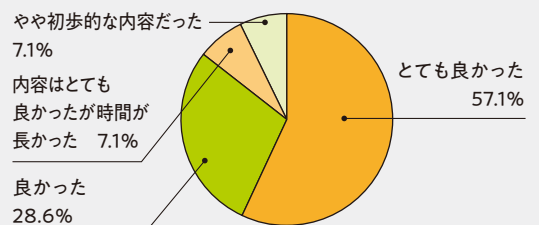
近年、女性活躍やダイバーシティを妨げる要因の一つとして注目されているのが、誰にでもあるといわれている『アンコンシャス・バイアス』の存在です。本学ではこの研修を通して、管理職の方々が『アンコンシャス・バイアス』とは何かを知り、またその影響を自覚した上で、女性教職員が持てる力を十分に発揮し、常勤教員・管理職または上位職を目指すことができる環境・風土を醸成することを目指しています。

参加者は15名でした。Zoomのブレイクアウトルームを用いたのグループワークがあり、普段なかなかじっくり話す機会のない教員と職員が、自分自身や職場環境を見つめ直し、思いを分かち合う機会となりました。

参加された方からは、「上司部下、先輩後輩の関係性でもアンコンシャス・バイアスが存在することを改めて認識できた」「自分の常識と他人の常識は違うことを意識するようになった」「意見を聞く時間の確保を心掛けたい」など今後のマネジメントに活かすことのできる建設的な感想をいただきました。一方で、「有意義な内容だったが、参加者が少なかった」「女性の参加者が少なかった」というご意見もありましたので、今後も継続的に開催していく予定です。

アンケート結果 抜粋

Q. 研修内容について



Q. 講師について



おすすめ本

『「アンコンシャス・バイアス」マネジメント 最高のリーダーは自分を信じない』

(男女共同参画関連図書コーナーより)

著者：守屋 智敬 (一社) アンコンシャスバイアス研究所 代表理事より抜粋

◆ アンコンシャス・バイアスは日常にあふれていて、誰にでもある

例えば、このようなことを思うことはありませんか？

血液型で、相手の性格を想像することがある

「介護中の社員」と聞くと、女性のことを思い浮かべる

「乳がん」と聞くと、女性を思い浮かべる(男性を思い浮かべない)

「親が単身赴任中」ときくと、父親を思い浮かべる(母親の方ではなく)

「男らしく」や「女らしく」と、思うことがある

評判や噂で、相手を見ることもある

まわりが頼む飲み物にあわせて、つい「私も同じの」と言うことがある

「日傘」は、女性がするものだと思う

「普通は●●だ」「たいてい●●だ」という言葉を使うことがある

年齢、学歴、職業等の属性で、相手を見ることもある

挑戦する前に、「私には、きっと無理」と、思うことがある

「前例」が気になり、一歩踏み出せないことがある

ここに記載していることは、日常や職場にあふれているアンコンシャス・バイアスのごくごく一例です。私たちは、「過去の経験」や「見聞きしたこと」に影響をうけて、無意識のうちに(知らず知らずのうちに)、偏ったモノの見方をしていることがあるかもしれません。

◆ アンコンシャス・バイアスの何が問題となるのか？

日常にあふれていて、誰にでもあるアンコンシャス・バイアス。アンコンシャス・バイアスに気づかずにいると、それによる「判断」や「言動」が、ときに、相手を傷つけてしまったり、自分自身の可能性をせばめてしまったり、イノベーションの芽をつんでしまったりといったように、ネガティブな影響をおよぼすことがあるため注意が必要です。

◆ 一人ひとりがイキイキと活躍するために

「100人が同じでも、101人目は違うかもしれません」
「100回の結果が同じでも、101回目は違うかもしれません」
「過去と、今と、未来とは違うかもしれません」



“わたし”も含めた一人ひとりがイキイキとする社会をめざして、
「これって、私のアンコンシャス・バイアス？」
が言葉となり、一人ひとりその時々と向き合うことを大切に。
そんな社会に一歩でも、二歩でも近づいていければと思っています。

理学部長 医学部附属病院 病院長 インタビュー

令和5年4月1日に理学部長に就任された玉木大理学部長と、
病院長に就任された花岡正幸病院長に
関男女共同参画推進センター長が、理学部、医学部附属病院における
男女共同参画の現状等についてインタビューをしました。



理学部
たまたき だい
玉木 大 学部長

理学部における男女共同参画

女性教員は、数学科0人、理学科物理学コース1人、化学コース1人、地球学コース2人、生物学コース0人、物質循環学コース1人、諏訪にある臨湖実験所に1人、の合計6人です。理学部

の教員が61人なので、1割弱です。私がここに来たのは30年前ですが、その時と比べると増えています。女子学生の割合は、今年の1年生では数学科は男子45:女子9。理学科は131:41。女子学生にもっと受験してほしいですが、どのように増やすのか良い方法がなかなか見つからないです。

数学や物理は女性から敬遠されている気がします。難しいイメージや、数学や物理を研究していると女性らしくないイメージがついているかもしれないです。親や学校の先生、生徒自身にも意識改革を促す取り組みをしないといけないと思います。それで理学部では昨年度から、JSTの事業で女子中高生の理系進路選択支援を行っています。高校生に中央図書館に来てもらい、女性の研究者や学生の話聞く、野外や企業に見学に行く等の機会を設けました。意識は急には変えられないので、中学高校に働きかけて、意識改革を促すことは、継続していきたいと思っています。研究者を育てる意味で大学院に進学する女子学生を増やしたいと思っています。



ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスは非常に重要です。デジタル技術を使って会議の時間を短縮し、回数を減らそうと試んでいます。教授会の資料を事前にGoogleドライブに置いておき、Teamsに質問・意見を書き込むようにしました。全学と理学部の動きは、私がスライドを作って説明しています。裁量労働制も活用するべきだと思います。フィールド系の研究者は、本当は山で研究をしたいが、授業や委員会もあるので、オンラインで山から講義が出来るようになると良いと思います。

自身のワーク・ライフ・バランスについては、現在は子どもも大きくなり一緒に住んでいないので、夜遅くても大丈夫かなと思います。以前は子育てを一生懸命やりました。保育園の迎えや買い物に行き、夕食を作り、高校生の時にはお弁当を毎日作りました。

理学部を目指す学生にメッセージ

理学部卒業生は就職が難しいと誤解されているようですが、数学も理論物理も企業では大変需要があります。理学部卒業生が企業に求められていることを理解し、数学や物理、生物等が好きなら理学部に来てもらいたいです。

※5月23日に取材したインタビュー記事を抜粋掲載しております。
インタビュー全文は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧いただけます。

医学部附属病院
はなおか まさゆき
花岡 正幸 病院長

医学部附属病院における男女共同参画の現状と課題

医学部附属病院の現状は女性の比率が多く、共同参画という意味では信州大学のトップを走っています。医師は男性が多いですが、看護部は圧倒的に女性が多いです。現在、医師や看護師等のメディカルスタッフなど、信大病院全体で約2000人の方が働いています。

課題は、医学部の女子学生が3割、4割と少ないことと、働き方の問題です。信州大学もそうですが、長野県は医師不足です。医師不足が解消されて、人員が豊富にいる状況になればローテーションができ、勤務は勤務、休みは休みとしっかりと時間が取れます。現在のような長時間労働がなくなれば女性も働きやすいと思います。

もう一つ、特に看護師のリカレント教育が大事だと思います。一旦職場を離れた方々に、また現場に戻って活躍していただくというのが非常に重要な課題です。特に医学の場合は、一度離れるとなかなか追いつけず、本人も不安になり戻って来られないことがありますので、座学よりも現場に出ている



だいて、現役の看護師と一緒に働き、実地・実践していただくシステムができればよいと思っています。

今後の取り組みに向けて

これからの構想は、長野県と共同で旭町庁舎に長野県医学教育研修センターを作り、学生や研修医にシミュレーション教育をして、診療所の先生まで含めて生涯にわたり医療者を教育できるシステムを作ることです。

医療の世界は男女で大きく差がつく場面はそれ程ないので、女性にとっても働き甲斐のある職場だと思います。診療に関してはもちろんですが、大学でするので研究、教育も重要であり、こちらの方面にもぜひ進出していってほしいと思います。優秀な女性の方が能力を遺憾なく発揮できるように、環境を作るのが私の務めだと思いますので、これから頑張っていきたいと思っています。



※5月11日に取材したインタビュー記事を抜粋掲載しております。
インタビュー全文は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧いただけます。

■ 令和5年度信州大学男女共同参画セミナー開催

「みんなで信州の未来を考えよう 2023」

—女性活躍推進キャラバン 第2弾—

開催日時：令和5年9月27日(水) 13:30~15:00

開催場所：信州大学 長野(教育)キャンパス 図書館2階 講義室

※Zoomによるライブ配信あり

詳細は男女共同参画推進センターのホームページをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/news/event/9272023.php>

■ 令和5年度(10-3月期) 研究補助者制度の利用者決定

令和5年度(10-3月期)研究補助者制度の利用者を厳正な審査のうえ決定しました。

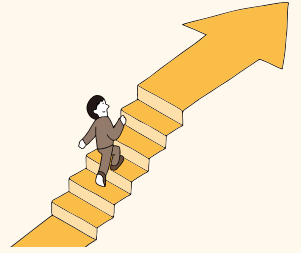
選考結果：利用決定者5名(女性3名、男性2名)



■ 前期講義「人生100年時代のライフデザイン」が終了しました

受講者98名

講義のアンケートでは、「人生のキャリアについて具体的に考えることができるとてもよかった」「自分の将来を考えることがより楽しみになりました!」などの感想が見られました。



■ 性自認による通称名の使用が可能となりました

「国立大学法人信州大学における役職員の旧姓・通称の使用に関する取扱要項」が新設され、性自認による通称名の利用が可能となりました。詳細はSOGI対応ガイドラインをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/activities/sogi/index.html>

子育て コラムリレー Column Relay

第28回

このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです



育児休業中の沐浴

我が家は、妻、長女、次女の4人で暮らしています。長女が生まれた時は、まだアパートに住んでいたため、泣き声、生活音をかなり気にしていました。実際、隣人に通報されて、児童相談所の方が夜に訪問してきたこともありました。

その当時は、義両親の助けもあり、私は育児休業など取得せずそのままフルで働き残業もしていました。

朝は妻と長女が寝ている時に出勤し、帰りは寝る寸前に帰るなど、妻には大きな負担をかけ、長女と関わる時間も短かったため、申し訳ないことをしたと反省しています。

次女が生まれた後は、育児休業と半年ほど短時間勤務を取得しました。業務量の調整と理解をしてくれた職場の皆様には本当に感謝しています。制度も変わり、男性の育児休業も取りやすくなっていますので、職場の男性スタッフには積極的に取得をお勧めします。短時間勤務中は、料理が全くできない私でも生協で注文・宅配・調理ができ、その便利さに感動しました。これもパパさん達にはお勧めです。

にしむら ひかる 西村 輝 主任作業療法士

信州大学医学部附属病院
リハビリテーション部

家族構成

妻・長女(4歳)・次女(1歳)

あなたのリラックス方は?

家族みんなで眠ること

私の両親は塩尻市に住んでいますが、子どもの急な体調不良の時は嫌な顔をせず、すぐに来て面倒を見てくれて感謝しています。私は妻と子どもたちと一緒にご飯を食べ、出かけた後、お風呂に入ったり、遊んだり、当たり前前の日常が一番の幸せです。それを支えてくれる妻、子ども、義両親、両親、職場の皆様感謝しつつ、これからも育児を楽しんでいきたいと思っています。



長女の保育園入園式



娘たちが生まれたときに撮った偶然同じ顔の写真

今回はこの方

信州大学医学部附属病院
集中治療部

鮫島 佳典 看護師

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター(SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。

▶ <https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/sufre/>

信州大学 スフレ

検索



男女共同参画推進
SHINSHU UNIVERSITY

教育学部分室
〒380-8544
長野市西長野 6-口
内線 831-4018

工学部分室
〒380-8533
長野市若里 4-17-1
内線 821-5693

農学部分室
〒399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室
〒386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5031